

第4回 福山市学校教育環境検討委員会 次第

日時 2025年（令和7年）7月7日（月）

18時30分から

場所 福山市役所 本庁舎3階 大会議室

1 教育長あいさつ

2 福山市学校教育環境検討委員会委員紹介 異動者

3 報告・説明

第3回検討委員会の概要及び補足説明

4 諮問事項についての協議

○これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

○新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

○学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

5 その他

○次回（第5回）学校教育環境検討委員会

【日時】2025年（令和7年）8月4日（月）18：30～

【場所】福山市市民参画センター（福山市本町1番35号） 5階 会議室1

■委員

2025年（令和7年）7月7日現在

名前	ふりがな	選出団体等
伊澤 幸洋	いざわ ゆきひろ	福山市立大学教育学部教授
森 美智代	もり みちよ	福山市立大学教育学部教授
佐々木 伸子	ささき しんこ	安田女子大学理工学部建築学科教授
山岡 英樹	やまおか ひでき	<u>福山市自治会連合会副会長兼事務局長</u>
久保 辰己	くぼ たつみ	<u>福山市自治会連合会副会長</u>
高杉 清志	たかすぎ きよし	福山市連合民生・児童委員協議会副会長
佐藤 正	さとう ただし	福山市交流館長会幹事
三木 智恵	みき ちえ	<u>福山市PTA連合会副会長</u>
<u>藤原 磨香</u>	<u>ふじわら まりか</u>	<u>福山市PTA連合会松永北ブロック協議会会長</u>
阿部 勉	あべ つとむ	<u>福山市PTA連合会</u>
橋本 秀基	はしもと ひでき	福山市公立小学校長会会長
新谷 陽子	しんたに ようこ	福山市公立中学校長会
土利川 佳保	とりかわ よしやす	福山市保育施設保護者会連合会会長
小鼓 悠	こつづみ はるか	福山市私立幼稚園PTA連合会
菅田 雅夫	すがた まさお	福山商工会議所副会頭
金山 節津	かなやま せつ	市民公募
亀山 マリエ	かめやま まりえ	市民公募
佐藤 有香	さとう ゆか	市民公募
花谷 忠厚	はなや ただひろ	市民公募

※下線：第3回委員会からの変更

(白紙)

第3回検討委員会の概要

第3回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年（令和7年）6月5日（木） 18:30～20:40

【場所】 市役所本庁舎3階 大会議室

【出欠】 出席17人 欠席2人

◎委員長、○副委員長

出	◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	出	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
欠	森 美智代	福山市立大学教育学部教授	欠	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
出	○佐々木 伸子	安田女子大学理工学部 建築学科教授	出	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会 連合会会長
出	山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長	出	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA連合会
出	久保 辰己	福山市自治会連合会常任理事	出	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
出	高杉 清志	福山市連合民生・児童委員 協議会副会長	出	金山 節津	市民公募
出	佐藤 正	福山市交流館長会幹事	出	亀山 マリエ	市民公募
出	野田 寿雄	福山市PTA連合会会長	出	佐藤 有香	市民公募
出	三木 智恵	福山市PTA連合会幹事	出	花谷 忠厚	市民公募
出	阿部 勉	福山市PTA連合会常任理事			

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 報告・説明
第2回検討委員会の概要及び補足説明
- 3 諮問事項についての協議
これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について
新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について
- 4 その他

委員から出された主な意見

■学校再編の在り方について

- ・再編後の学校と地域の関わりについて、地域の人はどう感じているのか知りたい。
- ・遺芳丘小学校では、学校再編により校区が広がったことで、学習資源が増え、体験できなかったことが体験できるようになり、それぞれの学校でやっていたこと以上のものが得られた。
- ・地域が広がると人との繋がりが増え、こどもたちの視野が広がる。こどもたちが地域での体験を発信していくことが地域の人には嬉しく、地域にとっても「自分たちの学校の子」という意識が芽生えていくと思う。
- ・加茂小・中学校では、校区が山野・広瀬・加茂となり、学校はどの地域にも出向いて学んでおり、地域を大切にしようとしていることがよく分かる。
- ・意図をもって、意識的に地域を学ぶことで、学校と地域の接続は図られていくのだと思う。
- ・学校から地域にだけでなく、地域でできることを学校に提案するなど、積極的に関わりを作っていくことで、お互いにメリットになるのではないかと考える。
- ・義務教育学校では、独自教科を設け、9年後の最終目標に向かって、何年生でどんな経験をしてどんな力を付けるか、成長の見通しをもち、教科横断的にカリキュラムを組んで取り組める点が他の学校と異なる。

第3回検討委員会の概要

- ・地域との繋がりを大切にする姿勢は、小・中学校も義務教育学校も変わらないと感じている。
- ・敷地面積や児童生徒数、また財政面を考えて、現存の全ての学校が義務教育学校にできるわけではない。義務教育学校は学校再編の一つの選択肢であり、小学校同士や中学校同士の学校再編など柔軟に判断していく必要がある。
- ・学校再編した後、すぐに次の学校再編の議論を始めなければならなくなっていくので、人口動態を見ながら、多様な選択肢の中の最適解を探っていくことが必要である。
- ・国内の出生数が70万人を割り、こどもの数は増々減少していく。安全に登下校できるようスクールバス・タクシー等の通学手段を確保した上で、ある程度学区が広がっても、1学年3から4学級程度の児童生徒数は必要と考える。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることのできる教育環境を考える必要があり、中学校においては、部活動ができる一定の人数が必要である。

■学校施設の在り方について

- ・学校のオープン化（地域に開かれた学校）に伴い、セキュリティ面に配慮が必要である。
- ・こどもの人権保護、プライバシー保護の観点から、更衣室やロッカーが必要である。
- ・中学生は体格が大きく、1学級の人数が多いと教室にゆとりのスペースがないため、生徒数を考慮した教室面積が必要である。
- ・小学校校長に学校施設についてアンケートをとった。多かった意見は、「多目的に使用できるよう、広い教室空間がほしい」「更衣室の整備」「トイレの洋式化・乾式化」「プライバシーが確保されたトイレの整備」であった。

■海外の学校施設について

- ・海外（スウェーデン）の事例を日本にそのまま導入することは、教育制度、教員数、スペースの面から難しい。
- ・現状の学校施設の中でも、一人一人のこどもの特性に配慮した居心地の良い空間をつくることなど、できることを多くの学校が取り入れている。各学校の実状に応じ、バランスをとりながら、できることをやっていけばよいのではないかと。
- ・学校教育の考え方、建物、人の配置等の違いを踏まえ、様々な角度から検討し、これからの学校施設の在り方について、どういう理想を描き、整備していくかを考えなくてはならないと思う。

まとめ

- ・義務教育学校の独自教科や小・中学校の地域学習を通して、各地域の多彩な地域資源を活用し探究的に学ぶことで、教育内容が充実し、こどもたちと地域とのつながりが深まっている。今後も、学校と地域が、意識的・積極的に関わっていく必要がある。
- ・義務教育学校の整備は、学校再編の一つの選択肢として、整備の可能性を検討していく。全ての学校を義務教育学校にしていくことは難しいため、児童生徒数の推移や各地域の実状を踏まえ、多様な選択肢の中から最適解を探っていく必要がある。
- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることのできる教育環境とする必要があり、一定の集団規模は必要である。
- ・学校施設の整備には、セキュリティやプライバシーへの配慮が必要であり、柔軟な教育活動が展開できる教室空間やトイレの整備など、多角的に検討する必要がある。
- ・外国の学校施設整備の考え方も参考に、福山市の学校施設整備の在り方を検討していく。

3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

コミュニティ・スクールのしくみを活かした教育活動

■幸千中学校区

- こうせん せんだ みゆき
・幸千中学校、千田小学校、御幸小学校の1中2小における取組
・2024年度（令和6年度）導入

学校運営協議会委員（13人）

地域企業代表取締役

ホロコースト記念館館長

千田交流館館長

御幸交流館館長

民生児童委員協議会会長

元校長

元教諭

各小中PTA会長

各小中学校長

【学校・地域・家庭が協働して取り組む教育活動】

「ふるさと・防災学習」「地域貢献活動」「平和学習」

幸千中学校

平和学習



ホロコースト記念館 校外学習

命と平和について
学ぶ



アンネのばらプレート贈呈式



美術部デザイン



オランダ大使館訪問

主体的・
対話的で
深い学び

多様な学
びの場の
充実

地域貢献活動



地域の清掃活動



絵本読み聞かせボランティア（交流館）



主体的・
対話的で
深い学び

多様な学
びの場の
充実

3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

コミュニティ・スクールのしくみを活かした教育活動

■幸千中学校区

- こうせん せんだ みゆき
・幸千中学校、千田小学校、御幸小学校の1中2小における取組
・2024年度（令和6年度）導入

千田小学校

ふるさと・防災学習



ゲストティーチャー（防災）5年



排水を行うポンプ場 5年



わくわく農園 2年
じゃがいも栽培



福山キッチン装飾 6年
「SOU 造 プロジェクト」

主体的・
対話的で
深い学び

元気・笑顔
で学び続け
る教職員

御幸小学校

平和学習・防災学習など



ヒロコースト記念館で平和学習 6年



「水」に関わる学習 4年



交通安全教室 希望者50名



防災学習 5年



野菜作り 2年

学びをつ
くる教職
員研修

多様な学
びの場の
充実

3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

コミュニティ・スクールのしくみを活かした教育活動

■想青学園

- ・義務教育学校（内浦・内海・能登原・千年・常石地域）における取組
- ・2022年度（令和4年度）導入

学校運営協議会委員（14人）

地域企業代表取締役

田島東部自治会連合会会長

常石交流館館長

横島地区連合自治会副会長

田島東部まちづくり推進委員会

社会医療法人沼南会理事

能登原学区自治会連合会会長

PTA会長・役員

就学前施設長

田島西部自治会連合会会長

沼隈内海商工会会長

校長

SOSEI学 歴史・文化、産業、自然等を素材に児童生徒の発見や疑問に応じ、展開する探究学習



地域の食材がまつたお弁当の考案・制作



地域の伝統文化をインタビュー



岩永書店にインタビュー

育成する
21世紀型“スキル&倫理観”

表現力 共感力
チャレンジ精神



地域のイベントで販売



能登原とんど制作



本の魅力を伝える

主体的・
対話的で
深い学び

SOSEI学 歴史・文化、産業、自然等を素材に児童生徒の発見や疑問に応じ、展開する探究学習



中学生による就学前施設訪問



消防団による防災

育成する
21世紀型“スキル&倫理観”

表現力 共感力
チャレンジ精神



交流館館長へインタビュー



地域の方からのアドバイス

多様な学
びの場の
充実

3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

コミュニティ・スクールのしくみを活かした教育活動

- 想青学園
- ・義務教育学校（内浦・内海・能登原・千年・常石地域）における取組
 - ・2022年度（令和4年度）導入

教職員研修の充実

カリキュラム編成の検討 地域の専門家による機器操作の指導



教職員フィールドワーク



地域の人的・物的資源が入ったカリキュラム



SOSEI祭に向けて動画作成・編集

学びをつくる教職員研修

教職員の業務改善

地域の人的・物的資源を整理・活用



「人・場所・ものバンク」登録票の作成



学校運営協議会で検討

プログラミング
ミシン・裁縫
畑・樹木の水やり草抜き...

2024年度（令和6年度） 南山町立児童福祉センター 人・場所・ものバンク				
No.	人・場所・ものバンク	人・場所・ものバンク	人・場所・ものバンク	人・場所・ものバンク
No. 1	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 2	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 3	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 4	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 5	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 6	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 7	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 8	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 9	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 10	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 11	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 12	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 13	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 14	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 15	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 16	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 17	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 18	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 19	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター
No. 20	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター	南山町立児童福祉センター

集約した声の集約

2024年度（令和6年度） 南山町立児童福祉センター 人・場所・ものバンク		
No. 1	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 2	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 3	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 4	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 5	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 6	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 7	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 8	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 9	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 10	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 11	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 12	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 13	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 14	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 15	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 16	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 17	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 18	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 19	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク
No. 20	南山町立児童福祉センター	人・場所・ものバンク

学校のスケジュールに反映

〇〇さん
水やりボランティア

元気・笑顔
で学び続
ける教職員

3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

コミュニティ・スクールのしくみを活かした教育活動

- 加茂中学校区
- ・加茂中学校、加茂小学校の1中1小（山野・広瀬・加茂地域）における取組
 - ・2023年度（令和5年度）導入

学校運営協議会委員(8人)

加茂学区自治会連合会会長

山野交流館館長

各小中学校長

山野町内会連合会会長

加茂小学校PTA筆頭副会長

加茂交流館館長

加茂中学校PTA会長

加茂小学校

総合的な学習の時間 加茂を知ろう(3年)



加茂交流館

総合的な学習の時間 山野の地形を学ぼう(5年→6年)



保健・体育 水泳学習(全学年)



加茂支所



加茂中学校

地域の方をお招きする会(1年)



総合的な学習の時間 山野狭太田ワイナリー見学(1・2年)



茶摘み体験(1年)



3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

コミュニティ・スクールのしくみを活かした教育活動

コミュニティ・スクールを導入することが目的ではなく、
コミュニティ・スクールの仕組みを生かして大人や学校、地域が変わっていくこと、
これからの社会を担う子どもたちが「真」の生きる力を身に付けること、
そして、誰もが持続的な幸せを感じることができる社会を「当事者」として創ること、
これらを実現することが、コミュニティ・スクールを導入することの目的である。

平成27年12月中教審答申
「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」より

コミュニティ・スクール導入前と後で変わったこと（幸千中学校区）

【教職員の意識の変化】

- ・めざす子どもの姿に向けて、「地域と協働しながら」取組を進めていくという共通理解
- ・「コミュニティ・スクールの取組は難しい」から「コミュニティ・スクールは既存の取組の延長上にある」という意識
- ・「学校で決定した取組を地域に協力依頼する」から「こんなことをしたい！地域に相談してみる」という意識

【地域の意識の変化】

- ・評価する立場ではなくて、自分事として捉え、学校と一緒に、どうやっていくといいかなということ考えながら、私たち自身も運営に関わって、子どもたちと一緒に育てていこうという意識でやっていく。
- ・この関わりが、将来の御幸・千田、そして福山市の盛り上がりにもつながっていくと思うし、私たち地域・企業も元気になっていくことがコミュニティ・スクールをやる意味だと思う。

答申の骨子（案）

福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題

- | | |
|--------------------|---------------|
| ① 児童生徒数の現状と将来推計 | ⑥ 教師の現状 |
| ② 学校規模の現状と将来推計 | ⑦ コミュニティ・スクール |
| ③ 学校施設の現状と課題 | ⑧ 義務教育学校の特色 |
| ④ これまでの学校再編の取組 | ⑨ 福山市のめざす教育 |
| ⑤ 特別な支援が必要な児童生徒の状況 | |

諮問事項 1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

- ① 学校再編（一定の集団規模）の必要性
 - ・これまでの学校再編の成果、再編後の学校でこどもたちが成長していく姿から、学校教育環境には、こどもが多様な人間関係の中で学び合い、育ち合うことのできる一定の集団規模が必要
 - ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進のためには、一定の集団規模が必要
- ② 義務教育学校の整備の推進
 - ・義務教育学校の特色、本市の2校の義務教育学校の取組を踏まえ、学校再編の一つの選択肢として、義務教育学校の整備の可能性を検討する。再編後の学校規模、既存施設の老朽度、敷地面積、地域バランスなど、総合的に検討し、優先順位をつけ、整備を推進していく。
 - ・義務教育学校は、現中学校区を単位とすることを基本とし、法令に基づき各学年2～3学級（標準学級数）を適正規模とする。
- ③ 義務教育学校の整備を進めるにあたって、考慮すべきこと
 - ・義務教育学校の取組の情報発信、良い取組の普及、教職員間研修
 - ・学校再編を繰り返すことにならないよう、将来を見据えた取組
 - ・スクールバス・タクシーなど、通学手段の確保（通学時間は1時間以内）
- ④ 多様な学びの場の教育内容の充実
 - ・イエナプラン教育校や特認校など特色ある取組の推進

諮問事項 2 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

諮問事項 3 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校経営の在り方について